

中分子原薬合成施設建設のお知らせ

日本触媒は、中分子原薬合成施設の起工式を執り行い、2018 年 12 月の完工に向けて建設を開始しますので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 背景および目的

日本触媒は平成 26 年度にスタートさせた長期経営計画「新生日本触媒 2020」及び、平成 29 年度からの後半中期経営計画「新生日本触媒 2020 NEXT」に基づき、健康・医療事業を始めとする新規事業の早期立ち上げ・新製品の速やかな上市を目指した取り組みを進めています。

健康・医療事業としては、次世代医薬品シーズの研究開発・臨床開発から製造受託に至る、一貫したサービスを提供する創薬支援事業の確立を目指しています。市場拡大が見込まれるペプチド医薬^{注1}原薬、核酸医薬^{注2}原薬、及び DDS^{注3}分野の領域において革新的なシーズを保有する企業等との提携を進める一方、当該領域における医薬品原薬の製造機能を確立・強化するための方策について検討を行ってまいりました。

今回建設する中分子原薬合成施設は当該領域において国内有数の製造規模を有しております。2016 年 9 月に完工した医薬合成研究室とあわせて、ペプチド医薬、核酸医薬の原薬について mg スケールの小規模合成から年産 kg スケールの合成までの GMP に準拠した製造が可能となります。これにより、当該領域における医薬原薬・治験用原薬の受託合成体制が整うこととなります。

注 1) アミノ酸を主要構成単位とする化合物でその生理活性作用（ホルモン様作用など）を医薬品として応用するもの。

注 2) スクレオチドを構成成分とする医薬品で、癌や神経変性疾患、遺伝性疾患等の難治性疾患に対する革新的な医薬品として発展が期待されている。

注 3) Drug Delivery System の略。必要な薬物を必要な時間に必要な部位で作用させるためのシステム。

2. 中分子原薬合成施設の概要

建設場所	日本触媒 吹田地区研究所内
対応法令等	日米欧三極 GMP、PIC/S GMP
延床面積	約 3,000m ²
完工予定時期	2018 年 12 月
稼働予定時期	2019 年 4 月
主要設備	ペプチドおよび核酸医薬の固相および液相自動合成装置、大量分取精製装置、凍結乾燥機等の製造設備および品質試験関連分析装置類
完成予想図	図参照



3. 今後の見通し

2017年度から2018年度までの業績予想には何ら影響を与えるものではありませんが、2019年度以降の業績については、上記設備を有効に活用し、創薬支援事業の実現・拡大に注力してまいります。

以上

【問い合わせ先】

株式会社日本触媒 経営企画室 I R・広報部

Tel:03-3506-7605 〒100-0011 東京都千代田区内幸町 1-2-2